

長期戦略策定会議議事概要

1 日時

令和3年2月10日(水) 午後4時00分から午後4時20分まで

2 知事冒頭挨拶

- はじめに、新型コロナとの闘いが続く中、それぞれの現場で、連日、奮闘していただいている職員の皆さんに感謝申し上げたい。
- 依然として、厳しい感染状況ではあるが、何としても乗り越える。そのための踏ん張りどころである。都政に携わる私たちの最大の使命、それは都民の命を守ること。今、脅かされつつある現状への危機感を、一人ひとりが改めて肝に銘じ、緊張感をもって、引き続き、総力を挙げて取り組んでいきたい。
- 同時に、そうした中であっても、その先にある「未来の東京」の姿を思い描き、実現に向けて歩みを進めていかなければならない。そのために、今回、都政の新たな羅針盤として策定するのが「『未来の東京』戦略」である。
- 副題を「渋沢・後藤の精神を受け継ぎ、新たな地平を切り拓く」とし、養育院の初代院長の渋沢栄一と、第7代東京市長を務めた後藤新平という、2人の東京の礎を築いた名前を掲げた。「温故創新」という言葉があるが、偉大な先人たちの精神を受け継ぎ、新しい発想と大胆な挑戦で、新しい時代を我々の力で創り上げるという強い決意を込めている。
- コロナ禍が浮き彫りにした課題を克服し、持続可能な回復を目指す「サステナブル・リカバリー」を信念に、構造改革を推し進め、「『未来の東京』戦略」の取組を推進する。目まぐるしい世界の動きも念頭に、東京を更なる進化へと導くべく、果敢に挑戦を続けていただきたい。
- 策定にあたっては、都庁も特別体制を敷く中、テレワークを積極的に活用し、工夫を凝らしながら、練り上げてきたと聞いている。「新しい日常」を実践しながら、創り上げてきたことの意義は大きい。
- 本日は、検討の成果として取りまとめた「『未来の東京』戦略(案)」について報告いただきたい。

3 議事

政策企画局理事（構造改革推進担当）から、「『未来の東京』戦略（案）」について説明を行った。

4 副知事発言

梶原副知事から以下のような発言があった。

- 全庁挙げて新型コロナ対策に取り組む中、各局の皆さんには、「『未来の東京』戦略」の策定に多大な協力を頂き、感謝申し上げる。
- 「『未来の東京』戦略」は、昨年度策定した戦略ビジョンの内容を、新型コロナの影響を踏まえてバージョンアップを図り、122の推進プロジェクトを盛り込むとともに、3か年の取組をアクションプランとして具体化している。戦略ビジョンの時にも話をしたが、作って終わりではなく、これをどう実行していくか、また、時代状況にあわせてアジャイルしながら、どう実践していくかが重要である。
- 東京が直面する課題は、複雑かつ多岐にわたっており、今回掲げたプロジェクトも、1つの局だけでは解決できないものも多い。局の垣根を越えて組織横断で取り組むことはもちろんのこと、政策企画局や総務局、財務局も加わり、推進チームなど、プロジェクト推進の枠組みを活用して、協力して政策を推進して頂くようお願いする。
- また、政策の実効性を高めるためには、これまでの各局の取組を更に一段も二段もレベルアップさせ、また、幅を広げる必要がある。求められるニーズを的確に捉え、エビデンスを分析した上で、これまでの役割ややり方に捉われないことなく、前向きに取り組んでほしい。

5 知事発言

- 本日は、多様性と調和をベースにした「『未来の東京』戦略」の案を仕上げてもらい、報告いただいた。
- 潮が引いたときにいろいろなことが見えてくるように、コロナ禍で、日本の弱み、強みが見いだされた。中でも、日本のデジタル化の遅れがあらわになったことは、特筆すべきことだと思う。時代の変化、世界の進化のスピードは、我々の想像をはるかに超えている。危機感を強く持って、取組を進めていかなければならない。

- 戦略は作ることが目的ではなくて、それを実際に行動に移して、結果を出すことが必要である。大事なことは、「行動」であり、実践してこそ意味を成す。社会での実装を次々に展開し、都民に目に見える形で成果を上げることが重要である。
- 今回、「東京ベイ eSG」、「ゼロエミッション東京」、「国際金融都市・東京」をはじめ、将来の東京を見据えた意欲的な取組が盛り込まれている。どれも1つの局で解決できるものではない。関連する局が主体的に向き合い取り組んでほしい。
- 目の前の課題に対して、できない理由を探すのではなく、どうやればできるのかを考えてほしい。高い目線を持って取り組み、日本と世界を牽引するような東京モデルを生み出し、「世界から選ばれる都市」を実現したい。
- そのためには、様々な課題の根源まで踏み込んだ構造改革を進めることも欠かせない。同じく公表を予定している都政の構造改革の実行戦略である「シン・トセイ」と車の両輪で、未来の東京を我々の力で切り拓いていく。
- この10年間を振り返ってみると、ものすごいスピードで世界が変化している。そのことを考えれば、2030年までの約10年は、日本にとっても東京にとっても死活的に重要な時間である。この『未来の東京』戦略を新たな羅針盤として、全庁を挙げて取り組んで頂くようお願いしたい。

以上